

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 ■その他（精神障害）
	• 対象児童生徒の課題	課題： 学校生活の経験が乏しいため、友だちや他者との関係作りに苦手意識がある。また、他者に自分の正直な気持ちを言葉で伝えることが苦手である。
	• 自立活動の目標	• 他者に気持ちを伝えることができる。 • 行事や係活動をとおして、役割を果たすことができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">心理的な安定</span> 人間関係の形成 環境の把握      身体の動き      コミュニケーション
	• 支援の手立て	• 本人の状態に応じて気持ちを聞き取る。ネガティブな感情の表出に対しても受容的な姿勢で話を聞く。 • 行事や係活動の内容や活動の流れを事前に説明しておく。必要に応じて事前に言葉かけする。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	• 学校生活を送るという経験が乏しかったが、同級生と誘い合って一緒に遊ぶ、気持ちを伝えるといった経験を自らすることができた。引き続き様々な関わりを経験し、必要な時には大人に相談することが課題である。 • 何事にも「こうあるべき」という考えが強くあり、気持ちが不安定になってしまうので、そういった考えを少しずつ和らげていくことが課題である。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	• 必要に応じて一緒に遊んだり、気持ちを伝える際に相談に乗ったりと関係づくりをした。 • 保護者と情報交換し、連携して支援する。
グループ討議	全校研究②学年・クラスで検討 • 参考になった支援方法等	• 教員との関係づくりを引き続き行い、気持ちを打ち明けられるようになる。 • 様々な友だち、教員と関わり生徒自身の「こうあるべき」という思い込みを少しずつ緩和できるようになるとよい。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な登校はできていない。</li> <li>・保護者と連絡を取りながら、家庭訪問などを行ったり懇談時の登校で担任や学年の教員と関わりを持ったりした後は校外学習、西浦フェスティバルへの参加はできた。</li> <li>・保護者と連携し、福祉機関、臨床心理士相談などを活用し、本人の気持ちを引き出す支援を行っている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本生徒は慣れていない人間関係の中で、人と関わる経験が不足していることや気持ちを言葉にすることが難しいという点で課題があるが、まだ支援の方法として効果があることはしっかりとわかっていない。</li> </ul>
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他機関と連携し、目標や課題を本人と共有すること。</li> <li>・本人が内容を理解しやすい方法を見つけること。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	課題： 不安定になると、物や他人に手を出すことがある。
	• 自立活動の目標	好きなことだけではなく、その時にやるべきことに取り組めるようになる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">心理的な安定</span> 人間関係の形成 環境の把握      身体の動き      コミュニケーション
	• 支援の手立て	苦手な場面で適切な行動を取ることができるように、自分から対処方法を伝えることができる。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	しんどい時に自分の口で教員に伝えることができた。気持ちのすべてではなく、1単語程度でも発言できたので、不安定さをある程度理解できるようになった。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	• しんどい、暑い等の気持ちの不安定要素を口に出すと担任からフォローの声かけをする。 • 給食やエンジョイタイムなどのすぐ近い未来を目標にして、気持ちの見通しの面で楽になるように言葉かけした。
グループ討議	全校研究②学年・クラスで検討 • 参考になった支援方法等	• 学年全体で見守り、コミュニケーションを取る。 • 本人が興奮するような接し方をしないようにする。 • コミュニケーションの積み重ねで本人が学ぼうとしている様子があることから、シチュエーション等を交えた事前学習が有効的かもしれない。
2学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化	• しんどいと口にする場面はほとんどなく、前向きに落ち着いて学校生活を送っている。苦手な暑い時期を越えたのも理由の一つかもしれない。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人にとって興味のある動物の話をこまめにして、気分の高揚を図っていた。</li> <li>・動物等のマネをすることを好んでおり、適宜披露してもらいながら本人の気分の発散につなげることができた。</li> </ul>
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な教員に自分を知ってもらえるスキルを付けてほしい。</li> <li>・余暇活動を充実させるために動物以外の興味関心の幅を広げる。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	• 不安感情が強くなると多動になり、自分の学年の場所を離れて移動しようとする。
	• 自立活動の目標	• 教室を離れての移動の際は、教員と一緒にもしくは教員の指示で動くことができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">心理的な安定</span> 人間関係の形成 環境の把握      身体の動き      コミュニケーション
	• 支援の手立て	• 授業など決まりきった場所への移動の場合は次に行う活動を伝えて見通しを持たせる。 • 自由時間の場合は、動ける範囲を廊下に引いてある線など利用して視覚的に伝える。本人の行きたい場所があるときは教員に伝えるように促す。 • 本人が気にかけている事に触れることにより、ルールを守る意識を強くさせて抑止力とする。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	• 担当教員との関係が密になるにつけ、指示に従って動けるようになってきた。 • 移動場所についてはよくわかってきた。 • テンションが上がっているときは、衝動的に動く。そういう時は本人が気にかけている事を伝えることで止めることができている。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	• 本人がエコラリアのようにいろいろな言葉を繰り返すことがある。それに対して返答しなかつたときにパニックになった。それ以来、繰り返しの言葉であっても本人の気持ちを押し量って対応するようにしたら、パニックの回数は減ってきた。
議 グループ討	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	• 見通しを持つことが必要な生徒であり、近未来に楽しみにしていることを例に挙げながら精神的な安定を図る。 • テンションが上がりパニック的なことがあるが、教員との丁寧な関係を持つことで落ち着いて過ごせるように

		<p>なってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SSTについて、「靴のかかとを踏まない」と伝えることで、どうしてか踏まないのかを伝えつつ、人の話を聞くという観点でも成長できるような機会を持った。</li> </ul>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な活動について、見通しを持てることが多くなり、落ち着いて過ごせることが増えた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西浦フェスティバルの練習ではその都度、直前に活動内容や場所が分かるといった見通しを持ちにくい活動であったためパニックになることがあった。紙に場所や流れを書いて示すことで見通しを持たせるようにした。</li> <li>・障がい特性も加味して視覚支援を行うのも有効であると感じた。</li> </ul>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆる活動で見通しを持ち、落ち着いて集団で過ごせるようになることが来年度の目標になる。</li> <li>・急なスケジュールの変更があった場合、場所を変えるなどパニックを回避する方策を自分で行えるようにすることが課題である。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	発語が単語なため、相手に自分の意図が伝わらずイライラすることが多い。また、困ったときの対処法がわからず、結果他害をすることが多々ある。
	• 自立活動の目標	自分の思いや要求を身近な教員や友だちに伝えることができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持      心理的な安定      人間関係の形成 環境の把握      身体の動き      コミュニケーション
	• 支援の手立て	• 行きたい「場所」を教員が提示し選択させる。 • 『行きたい』や『やりたい』等「なにを」したいのかを伝えるように促す。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	• 大人とのコミュニケーションをとっている。 →行動が変化している（暴力をふるおうとするが、とめられるようになった）。 • 環境の変化
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	• 本人との距離が近いので、周りの生徒にもコミュニケーションの取り方を伝える必要がある。 • エコラリアは見られるが、それに反応することは大事である。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	• 環境整備（教室を涼しくする）をする。 • まず大人とのコミュニケーション（知識を得る）をとる。徐々に友だちとのコミュニケーションをとる中で学ぶことができる環境を作る。 • やりとりの場面を増やす。自分の気持ちと向き合って、行動、または交渉ができるようになればいい。
2学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化	• 引き続き大人とのコミュニケーションが多いが、本人の意図を汲み取り、それに合わせた言葉かけや行動を促すことで、他害が減った。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何がいけなかったのかを端的に伝えること、どのような行動をすれば良いかを具体的に伝えることが生徒の成長につながるということが良く分かった。課題としては、支援すべきタイミングが難しい。本人の意思を促すべきなのか、言葉かけで支援を入れるべきなのかを見極めることが今後の課題である。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ</p>	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>目標：要求できるボキャブラリーを増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視覚より聴覚の方が入りやすいのかもしれない。</li> <li>・ 実際の場面（暑い・寒い等）に合った言葉を伝える。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 広汎性発達障害 ）
	• 対象児童生徒の課題	長時間授業に集中することが難しく、すぐに席から立って教室を走ったり、机や壁を強く叩いたりすることがある。
	• 自立活動の目標	授業と休憩時間の切り替えができるようになる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 <input type="checkbox"/> 心理的な安定      人間関係の形成 環境の把握      身体の動き      コミュニケーション
	• 支援の手立て	言葉がけや絵カードを使って日常的に取り組むことで、見通しをもたせる。休憩時間では、本人の好きな散歩に行くなど、本人の希望を優先して行う。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	活動の前に事前にする内容を伝えることで見通しをもつことができ、活動に落ち着いて参加することが増えてきた。今後については、どの指導者の言葉かけでも同じように見通しをもち、落ち着いて活動に参加できるようにする。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	本人のしたいことに「だめ」というのではなく、「これが終わったらしよう」「この時間からしよう」など本人の意思も尊重しながらも、今やるべきことを伝えることで、落ち着いて授業に参加できる回数が増えてきた。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	家での本人の体調や様子を聞き、学校での対応と家での対応を共有して合わせられるようにする。指導者が伝えたことを繰り返し本人と復唱することで、やるべきことが入るように促す。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<p>担任以外の教員でも一定の指示で見通しをもつことができ、活動に落ち着いて参加することが増えてきた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>本人がパニックになったときは指示が入らないのでクールダウンさせることが重要だとわかった。言葉かけの際は声のトーンを変えることで、より効果的に指示が伝わった。</p>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>パニックになる前の前兆として壁や机を叩くことがあるので、パニックになる前、壁や机などを叩くことを指導し、落ち着かせる。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<p>■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、</p> <p>□情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、</p> <p>□その他（両上肢、体幹機能障害　　）</p>
	• 対象児童生徒の課題	<p>課題：・自分の気持ちをコントロールできる。</p> <p>・人との適切なかかわり方を覚える。</p> <p>気持ちが不安定になると、大きな声で注意されるのを待つように不適切な発言をして人の気を引こうとする。</p> <p>自分が騒ぐことで、余計にテンションが上がり自分で落ち着くことが難しくなっていく。怒られるのも大好きなので、教員からの言葉かけがさらにテンションを上げることになりかねない。</p>
	• 自立活動の目標	<p>・不安定になった時に、人の話に耳を傾けることができる。</p> <p>・適切な言動を確認した後、自分で言動を直すことができる。</p>
	• 上記目標に対応する区分	<p>健康の保持            <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">心理的な安定</span>            人間関係の形成</p> <p>環境の把握            身体の動き            <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コミュニケーション</span></p>
• 支援の手立て	<p>・不安定な様子が見られた時は、静かなトーンで対応し、前向きな気持ちになるような言葉かけをする。</p> <p>・適切な言葉遣いができた時にきちんと認めて褒め、不適切な言葉遣いの中には、何が不適切だったのか一緒に考える時間を取る。</p>	
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<p>注意されることを喜ぶところがあるので、できるだけ言葉数を少なくして指示すると、自分で気づいて「今すべきこと」に意識を向けることができる 때가あった。</p> <p>言葉遣いも気持ちの安定も定着が難しく、自ら意識して適切な態度が取れるようになるのが課題である。</p>
	<p>• 教員自身の成果や課題</p> <p>• 効果的だった支援の実践方法等</p>	<p>・少しずつではあるが、どの様な態度や言葉かけが本生徒の心に伝わりやすいか理解できるようになってきたが、大きな声を出している時など、周りの生徒との関わり上厳しく注意することで、逆効果になることがあるのが課題である。</p> <p>・言葉数を少なく、静かに指差しなどで指示するのが効</p>

		果的と思われる。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> ・参考になった支援方法等	本人の現状を確認し、誤学習してしまっている関わり方を修正していくために、きちんとできた時に普通のトーンで褒めることで、自然な関係を作っていくことが大切。
2学期の振り返り	・児童生徒の様子、変化	気持ちを落ち着かせるために、一人になれる空間を作り、周りに気が散らないようにした。落ち着ける時もあったが、かまって欲しい気持ちが大きいと、わざと声を出したり机をたたいたりして、注意されるのを待つことがあり、大きな成果を上げるには至らなかった。
	・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等	・根気よく関わることで、耳を傾けるようになる半面ずっと自分を見ていてくれるという思いになることがあり、一進一退のように感じた。 ・できるだけ言葉数を減らすように努めたが、本児がそれに対応し言葉が少なくても自分のテンションをあげてしまうのが課題である。
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> ・児童生徒の来年度の目標、課題等	・気持ちの折り合いをつける方法を知る。